

2024年12月6日

各位

Global X Japan 株式会社

半導体市場は今後 10 年で 2 倍に拡大？ 投資初心者が、半導体に投資をする上で押さえておくべきポイントは？ ～「テーマ投資」の意義とその始め方～

日本で唯一のETF専門資産運用会社[※]のGlobal X Japanは、設立後約5年間で特長あるETFを東京証券取引所に49本上場させ、また運用資産残高が4,000億円を突破するなど急成長を遂げています。

テーマ型を数多く取り扱う当社のETFの中で、特に人気のテーマの1つが半導体です。

※自社調べ（2024年11月時点、日本国内でETFのみを取り扱う資産運用会社）

半導体は、AI・クラウド・自動運転など、世の中を支える技術に活用される注目の投資テーマです。半導体市場はこれまでもゲーム機やデジタル家電、PCをはじめとする電子機器、スマートフォンの普及によって順調に拡大を続けており、また今後の成長も見込まれます。

そこで、本レターでは半導体銘柄へ投資を検討する際に押さえておくべきポイントや、投資初・中級者におすすめの「テーマ投資」の意義と、その始め方について当社のリサーチ担当者が解説します。

<話し手>

運用ソリューション部

運用戦略チーム ディレクター

齊藤 範章



AI、クラウド、自動運転……技術革新を支える半導体。

今後 10 年で半導体市場は 2 倍超に拡大すると予測

一時価総額でアップルを上回り世界首位に躍り出たエヌビディア、熊本に新拠点を置き注目を集めているTSMC（Taiwan Semiconductor Manufacturing Company）と、半導体関連のニュースは2024年も多かった印象を受けます。半導体銘柄への投資が盛り上がりを見せている背景には、どんなことがありますか？

齊藤

半導体産業は長期に渡って成長を遂げており、直近5年程度は特に大きく注目されています。例えばスマートフォンは各社から毎年のように新機種が発表され、処理速度、メモリ容量や様々な機能が逐次アップデートされていますが、その進化を支えているのが半導体です。

AI もクラウドコンピューティングも自動運転も、半導体なしには実現できません。技術革新の重要性が高いこれらのビジネスを手掛ける企業にとっては、ある程度高いコストを払ってでも最先端の半導体を購入する事が結果として高い投資効果を生むため、半導体産業は非常に利益率の高い産業となっています。

技術の進歩に伴い、新たな需要が生まれる…。進化と成長のサイクルを続けているのが半導体市場であり、世界の半導体市場売上高は今後10年間で2倍超に拡大すると予想されています。

一市場の成長性を考えると、投資テーマとして魅力的ですが、半導体銘柄へ投資をする上で、押さえておくべきポイントや注意点はありますか？

齊藤

まずは非常に波のあるセクターである、ということを押さえて欲しいと思います。半導体産業には、3-4年程度の周期で在庫が不足・過剰となったり、出荷量成長率が実需以上・以下となる事を繰り返すような、「シリコンサイクル」と呼ばれるビジネスサイクルがあります。

例えば新型のスマートフォンの売れ行きが好調の場合、半導体の実需が増加し、注文も相次ぎます。さらに、スマートフォンメーカーやスマートフォンメーカーに部品や設備を供給する企業は需要の伸びを見越して多めに発注するため、半導体出荷量は実需以上に伸びるでしょう。しかし生産量が増え、最終製品が余り始めると半導体の実需も減速します。半導体の在庫も過剰となるため、今度は各企業が半導体の発注量を抑制し、半導体のお荷量が実需以上に減速することになります。加速局面では半導体の供給が不足するため半導体自体の価格も上がりやすく、半導体工場の稼働率は高くなります。逆に減速局面では半導体が供給過剰となって価格が下落し、生産工場の稼働率も下がります。

半導体の工場は、高稼働であれば非常に収益性が高い反面、低稼働になると一気に収益性が悪化する特徴があります。そのためシリコンサイクルの減速局面では業績



が急速に悪化し、加速局面に入ると一気に業績が向上します。

このように、まずはシリコンサイクルという大きな流れと、短期的には変動率が高いセクターだという事を押さえておくことが重要です。

そしてもう 1 つ押さえておくべきポイントは、半導体株の特性と株式市場全体への反応です。半導体株は先ほど述べたシリコンサイクルを先取りするような動きを見せる性質があります。例えばシリコンサイクルが減速局面にあり半導体企業の業績が厳しい時でも、投資家が減速局面の終了が近いと判断していれば半導体株は底打ちして上昇を開始したり、逆に加速局面で業績が好調な時でも、投資家が加速局面のピークアウトを予想すれば半導体株が頭打ちして下落をはじめたりします。また、半導体銘柄は株式市場全体の値動きに敏感に反応する「高ベータ株」です。例えば TOPIX が 10% 上昇する局面では、半導体銘柄は 15% 程上昇するなど、大きく反応する傾向にあります。何かマクロ的な要因で株式市場全体が変動した場合に、シリコンサイクルのように半導体産業に直接関係する材料とは無関係に半導体株が大きな変動を見せることもあります。このような投資家の見通しの変動や株式市場全体の変動も含めて半導体株の上昇・下落局面を正しく予測する事は投資のプロであっても非常に難しいものとなります。

シリコンサイクルはやや減速、国際情勢や地政学的リスク。

半導体市場には悲観的なニュースも多かった 2024 年

—2024 年の半導体セクターは、どのような投資環境でしたか？

齊藤

半年程のスパンで見ると半導体株は TOPIX のリターンを大きく下回っており、年初来で見ても TOPIX の上昇と比較して出遅れ感があります。その背景には、米国による対中輸出規制という業績のマイナス要因が明らかになった事や、AI 向け以外の半導体需要動向に関しての懸念が台頭したことがあると考えています。

米国は政治・経済の両面でライバルとなった中国の技術発展を阻害すべく、技術革新の根幹を担う高性能半導体や、その製造に使う最先端の半導体製造装置を中国が自由に調達できないよう規制する動きを見せており、半導体や半導体製造装置の対中国売上の落ち込みが見込まれています。

地政学的なリスクも、引き続き懸念されています。半導体は国を跨いだサプライチェーンが最も発達している産業の一つです。世界最大の半導体受託製造企業、台湾の TSMC が熊本県に工場を建設した背景にも、台湾と中国の関係に関する地政学的リスクの分散を図る意図が含まれていると見られます。来年 1 月に米大統領に就任するトランプ氏は貿易問題への関心が強いので、関税など貿易関連政策が打ち出されるなどして半導体サプライチェーンが影響を受ける可能性も高いでしょう。

やや悲観的な話題が目についた 2024 年でしたが、AI やデータセンター、自動運転……と技術革新や設備増強が期待される息の長いテーマが今後もたくさん控えています。中長期的に見て、価格は高くても性能の高い半導体への旺盛な需要や、高水準の設備投資が世界的に続く可能性は高いと考えています。

—投資初・中級者が投資判断をする際は、どういった情報を参考にすればいいでしょうか？

齊藤

半導体セクターで代表的な銘柄の動きはマーケットへのインパクトも大きく、参考になります。例えばエヌビディアが四半期に 1 回出す決算発表と、その後の株価の動きをチェックすることから始めてみると良いと思います。

また、当社が毎月発信している「[半導体マンスリー](#)」では、半導体指数の推移や騰落率、半導体関連銘柄の騰落率、毎月の半導体関連ニュースをまとめています。業界動向を俯瞰的に捉え、主要なトピックスを抑えるのに役立つので、是非参考にしてください。

投資初・中級者に推奨する「テーマ投資」。ETF が最適な理由「リスク分散」「小額投資」

—投資初・中級者が半導体銘柄への投資を始める際には、何から始めれば良いでしょうか？

齊藤

投資初・中級者におすすめするのは「テーマ投資」として半導体銘柄に投資を行う事です。テーマ投資では、先ほど半導体に関してご説明したような、わくわくする未来が描ける有望な「テーマ」を見つけ、それに関連した銘柄群に投資を行います。その際に活用していただきたいのが ETF です。



個別株への投資は、パフォーマンスが個社の状況に大きく左右されます。「テーマ」自体は盛り上がっていたとしても、個社の要因で株価が大きく下落することもあるため、テーマだけでなく個別企業についても深いリサーチが必要となります。

その点、ETF は「テーマ」に沿った企業に分散投資をしているので、個別株への投資と比較して相対的にリスクを低減しつつ、「テーマ」に投資を行うことができます。

—半導体をテーマにした ETF にはどのようなものがありますか？

齊藤

当社では 2024 年 11 月現在、3 つの半導体関連 ETF をリリースしています。

[グローバルX 半導体 ETF【2243】](#)

半導体関連のビジネスを行う、米国上場企業 30 社に投資をする ETF です。組入銘柄には話題のエヌビディアはもちろん、通信用の半導体を手がけるブロードコム、半導体製造における露光装置で世界シェア No.1 のオランダの ASML ホールディングス、半導体受託生産最大手の台湾企業 TSMC などがあります。

[グローバルX 半導体関連-日本株式 ETF【2644】](#)

半導体製造工程における製造装置や、素材分野で高い競争力を持つ日本企業に投資をする ETF です。時価総額 300 億円以上の国内株式のうち、売上の 50%以上が半導体関連という、日本を代表する半導体関連銘柄を中心に厳選投資しています。

[グローバルX 半導体・トップ 10-日本株式 ETF【282A】](#)

2024 年 11 月 21 日（木）に新しく上場した、日本を代表する半導体関連 10 銘柄に集中投資をする ETF です。銘柄を厳選している分、グローバルX 半導体関連-日本株式 ETF【2644】と比較すると、当然ながら値動きは大きくなります。逆に半導体業界に勢いがついたとき、一気に値が動く ETF です。

組入銘柄としては製造装置で世界トップクラスの技術力を誇るアドバンテストや東京エレクトロン、ディスコがあります。またシリコンウエハで世界シェア首位の信越化学工業、2 位の SUMCO も組み入れています。日本企業が特に強い半導体製造装置や部品・素材の分野に集中的に投資することができます。

半導体市場は巨大な資本・設備投資が必要なため参入障壁が非常に高く、大手企業が寡占しています。シェアトップ銘柄への投資で、世界の半導体市場の成長を捉えることができます。

一方で、半導体株は1株あたりの株価が高い「値がさ株」が多く、最低購入単元の100株を購入すると、NISA 成長投資枠の年間上限240万円を超えてしまう銘柄もあります。ETFであればリスクを分散できるのはもちろん、1口から購入できるため少額から投資することができます。ちなみに半導体はトレンドが来ると勢いが強くなるセクターなので、投資中・上級者であれば短期のトレードにも、ETFは活用しやすいと思います。

値動きが激しい半導体ETFは、時間分散が重要。

投資初心者は、資産の一部をテーマ型ETFへの積立投資に振り向けるのがおすすめ

—半導体関連ETFに投資するタイミングはどうやって決めればよいですか？

齊藤

ご自身の短期的な相場観ではなく半導体の中長期的な成長性に投資したい場合は、一度に全額を投資せず、積立投資を行うのが有効です。投資で難しいのはタイミングです。どのタイミングで購入するのがベストかは、結局のところほとんど誰にもわかりません。

年間数%しか値動きのない銘柄では、どのタイミングで購入しても、トータルのリターンは大きく変わりません。しかし半導体ETFのように月単位で大きな値動きがある銘柄の場合、一度に投資してタイミングが裏目にでたらリターンがなかなか得られない可能性がある一方、積立投資なら投資タイミングを分散しつつ株価が下落した際により多く購入することができるので、時間分散の効果が大きくなります。

投資初心者が積立投資をスタートするにあたり、真っ先に候補に上がるファンドは対象が「全世界」の商品になると思います。これは文字通り世界中の株式に分散投資をするものなので、自分が何の銘柄に投資しているのか、なぜパフォーマンスが上下しているのか、なかなか実感しづらいものがあります。

そのため資産のコアは、リスクを分散しながら幅広い株式に投資できる商品を活用して、市場全体の成長をリターンとして受け取りつつ、資産の一部をご自身の興味のある「テーマ」投資に振り分けてみてはいかがでしょうか。

当社で取り扱っている ETF では、テーマに合致した 10~30 ほどの銘柄に絞り込んでいるため、個別株投資と比較し、リスクを分散しながら気になるテーマに集中的に投資をすることができます。その中で気になる個別銘柄が出てきたり、自分なりの投資方針が見えてきたりと、気付きも大きいと思いますので、ぜひ ETF を活用した投資にチャレンジして欲しいと思います。

(取材・執筆／藤井恵)

【会社概要】

商号	Global X Japan 株式会社
所在地	〒100-6121 東京都千代田区永田町二丁目 11 番 1 号 山王パークタワー21 階 03-5656-5274 (代表)
事業の内容	投資運用業、投資助言・代理業
設立	2019 年 9 月
資本金	50 億円 (資本準備金を含む)
株主	Global X Management Company, Inc. (50%) 大和アセットマネジメント株式会社 (40%) 株式会社大和証券グループ本社 (10%)
拠点	東京
役員	代表取締役会長 張峯碩 代表取締役社長 姜昇浩
役職員	69 名
HP	https://globalxetfs.co.jp/index.html

【このニュースレターに関するお問い合わせ先】

info@globalxetfs.co.jp

Global X Japan 株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第 3174 号
一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人投資信託協会会員

免責事項

- ・本資料は会社概要及び投資戦略等をご紹介することを目的としており、資料に含まれる商品の勧誘・販売を目的とした資料ではありません。
- ・本資料に記載されている内容、情報及びデータ等につきましては、本資料作成時点のものであり、各種要因により変動します。
- ・本資料に関する一切の権利、義務は、情報提供者に帰属し、情報提供者の事由により内容が変更・修正されることがあります。
- ・本資料の情報に基づく判断については、閲覧者ご自身の責任のもとに行うこととし、万一本資料の情報により損失を被ったとしても、情報提供者は一切の責任を負うものではありません。
- ・本資料の著作権は、情報提供者に帰属します。

・ファンド（投資信託）のリスクについて

ETFは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因については次のとおりです。

株価指数先物取引の利用に伴うリスク、株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）、リートの価格変動（価格変動リスク・信用リスク）

優先証券の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）、公社債の価格変動、カバードコール戦略の利用に伴うリスク、為替リスク、カントリー・リスク、その他（解約申込みに伴うリスク等）

- ※ 基準価額の動きが指数と完全に一致するものではありません。
- ※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。
- ※ 設定・交換のお申し込みにあたって、詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。
- ※ 詳しくは、金融商品取引所で取引をされる際にご利用になる証券会社にお訊ねください。

・お客さまにご負担いただく費用

ETFに係る費用（金融商品取引所を通してETFに投資するお客さまの場合）（2024年11月現在）

ETFの市場での売買には、証券会社が独自に定める売買委託手数料がかかり、約定金額とは別にご負担いただきます。（取扱会社ごとに手数料率が異なりますので、その上限額を表示することができません。）

保有期間中に間接的にご負担いただく費用として、以下の通り運用管理費用（信託報酬）がかかります。

- ・グローバル X 半導体 ETF【2243】：年率 0.4125%（税込）
- ・グローバル X 半導体関連-日本株式 ETF【2644】：年率 0.649%（税込）
- ・グローバル X 半導体・トップ 10-日本株式 ETF【282A】：年率 0.11%（税込）

※その他の費用・手数料としては、組入る有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、監査報酬等を信託財産でご負担いただきます。

- ※ 「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。
- ※ 手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場投資信託および上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。
- ※ 詳しくは、金融商品取引所で取引をされる際にご利用になる証券会社にお訊ねください。
- ※ 設定・交換のお申し込みにあたっては投資信託説明書（交付目論見書）の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。